

のくる楽しみ。いただく喜び。
 こころ華やぐ
Wagashi
 和菓子びより *biyori*

みなさま、こんにちは。まだ暑さの残る日もありますが、少しずつ秋を感じ始めるようになり、秋を使ったものではなく、秋のもの、秋の花の数々、秋の時期、一番使われるのはやはり「菊」でしょう。今号では、「菊の和菓子」をご紹介します。写真の「菊」は、「着せ綿」という練り切りです。みなさんは「重陽の節句」という風習を聞いたことがありますか？



NAGATSUKI

九月の和風月名は、夜長月であることから長月となっていますが、他に、菊月、菊咲月、菊開月などの別名もあるのだそうです。



a. オンライン和菓子クラス開催中。練り切りは事前に材料を郵送。詳細は Web サイトをご覧ください。b. オーダーメイド和菓子はオンラインショップで受付中。割引クーポン「QTIME0922」をお使いください！

The Story September 2022: 「菊に込める願い」

五節句のひとつである「重陽の節句」は、奈良時代に中国から伝来した旧九月九日を「重陽」と呼んで祝う風習です。そして、日本独自の風習として根付いたのが「着せ綿」です。

赤系には白い綿を使うのだとか。さらに色の違う小さな綿をのせて、しべを表すものもできました。当時、宮中では菊を觀賞する宴が行われ、菊の花を浮かべた酒を飲み、詩歌を詠んだとあります。「重陽の節句」は、別名菊の節句と言われるように菊の花が中心にあります。

重陽の前夜に、薬草でもある菊の花を真綿でおおって香と夜露をうつとりします。翌朝その真綿で顔や体を清めると、不老長寿が叶うと行われたのが「着せ綿」です。そしてその綿の色には決まりもあり、白の菊には黄色、黄色なら赤、

色付けした練り切りあんにスジをつけ、咲き切る直前の菊の花びらを表現。その上に着せ綿をイメージした白あんをのせました。菊を愛で、不老長寿を願う和菓子です。



杉井ステフェス淑子
 東京出身。和菓子作家。アメリカでオーダーメイドの和菓子作品の制作、オンライン和菓子教室、デモンストレーション、展示を行う。著書「甘くてかわいい、食べられる宝石琥珀糖のレシピ」。WEBサイト・オンラインショップ：
<https://kohakuto.com/>

topico_wagashi | japanese_wagashi

